

和書門類
 一七四九
 一七五九
 一七三九
 一七三三
 一七三七
 函架冊

211
 內閣文庫
 和書類
 一七四九
 一七五九
 一七三九
 一七三三
 一七三七
 函架冊

兵法十二

內閣文庫	
番號	和 17459
冊數	7 (1)
函號	154 211

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



座右書卷第一

目錄

小笠原系略

小笠原領公方御日記

武田小笠原兩家相遠事

重藤弓

本重藤弓

金枕弓

千手卷弓

塗弓三下及

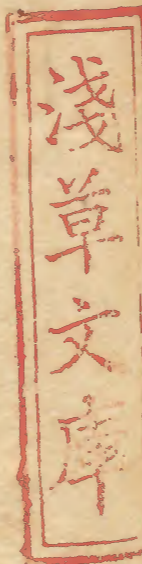
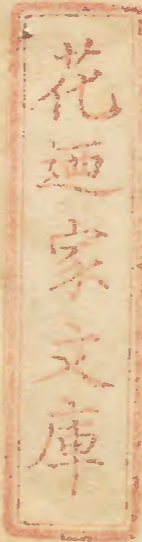
的弓白木弓

村正氏乃弓

側白木弓

側黑弓

箭卷弓



弓名所
 附卷板
 弓を張
 弓持板
 弓袋
 弦并弦卷
 弓杖打
 弓矢寸尺
 弓矢雜事

座右書
 凡例

一 京都將軍の時代我家の先祖代々伊勢もふ但一政亦職事あり
 初は補せられて將軍家殿中乃礼式作法を司たりりれは法家の
 人々殿中の礼法を伊勢もふといひ多し也又小笠原家代々將軍
 家乃馬乃師範といひ彼流を司ひりりれは法家の人々弓
 馬乃礼式を小笠原といひ多しこれ小笠原殿中の礼法を
 我々祖伊勢もふといひ多し伊勢もふなるの礼法を小笠原といひ
 多し也依い小笠原の古傳書も多し我々伊勢もふなり
 今古傳書もその門外の人々乃圖書の古書もその中より予
 々々悟りて予々もその書ありて一書と成りぬ是書も
 座乃りて予々もその書ありて座右書と名付り也
 一 此書は大的以下歩射の事流瀟々以下騎射の事を記せり然れども
 是令式にあらず予々も其ありて彼是かき摘記し予々あり
 今令式は名を色し予々書も其ありて備り予々書も就
 考へて詳ありしを得り

一 一書より矢印制作等乃事古傳書を引用して記しし中と同流
 の説かざるを以てお違半もあり是ハ二事ある一は人の足
 遠在傳字乃流をきくそは多分の流子物く用也一
 一 近世乃人の風俗なる字は礼式を考を知りしる人堅く秘して人の傳え
 る所世に著く知る人なくして終ふ事断絶の基とある一又近世乃
 師通る此師通諸礼者あつていふ者とも歩射騎射の礼式乃矢印制作
 の有るを知らず何流彼流と稱して出ても知れず有るもあき事
 未作して人をあざむくよあざむく人せよ著く多し有る非流
 一 日よ盛よあり正傳ハ月よ流きて殆断絶せんとすおくむべく
 むげくべきものこれ我子孫有るをゆよして著くたりけり教へ
 弘くせけ道乃万代の末乃代すも傳りて断絶せざらん事をか
 まうく一堅く秘して人はあきせずおのこいり知りしる人
 一 者乃取らあり
 安永七年戊戌六月廿七日
 伊勢平兵衛丈記
 于時六十二歳

○座右書

引用古傳書目録

- 一 法量物 應永廿七年八月廿八日小笠原信宗持長法名同信宗満法名長法名與元連名判りし又一本文安二年七月廿八日淨元判
- 一 射所持長記 應永廿九年三月一日小笠原民部少輔持長同信宗入道與元與書なり又文明十年二月日細川右馬政國多賀堂後書り忠小笠原兵部少輔元長連名判りし
- 一 射所拾遺抄 應永廿九年三月五日小笠原信宗持長同與元連名判りし
- 一 永正二年二月二日法谷宗力左衛門喜隆傳來
- 一 高忠傳書 寛正五年十月日高忠判又明應二年賢家判
- 一 永正十七年上京をたぐる高判たぬ人與書なりし
- 一 弓矢條々 多加賀堂後書り忠自宗一傳書也云々法市判りし
- 一 畧本記 天文十二年十二月二日畧中美濃守縁侍與書判りし
- 一 軍陣傳書 寛正二年四月十日次弘治二年六月十日と又寛永承正八年六月日小八本若狭守忠勝判りし
- 一 出陣傳書 應永廿九年二月廿日信宗持長判入道與元判又明應二年

引用書目録

- 一 佛之者也云々永祿二庚申歲八月二日伊勢加賀守貞助判
- 一 笠野射子射拜記 奥書三金仙寺貞宗ヨリ相傳云々天文十五年八月十日伊勢守貞孝とあり久保長定射子神在矣故實條云々あり
- 一 的出張記 永祿六年六月十日伊勢守貞久記之
- 一 射子方陣書 一名弓馬陣書日記 記者不知文安口永年小笠原山城古古史書也奥書云々紙名小笠原山城ヨリ同名者云々相傳仕也
- 一 矢代之記 此書記者不知小笠原家ノ書と見之書中勝定院殿代傳永三年圖的ノ付系小笠原家代傳例云々云々後ノ書也
- 一 弓馬陣書 矢野元 文龜元年七月廿一日堤右京亮右宗記之小笠原保希入乃淨元同播磨ヨリ傳之書也
- 一 隨兵日記 文明十八年三月十一日小笠原播磨元長記之
- 一 上賢抄 多賀豐後高忠ノ弟子上原豊成ノ賢家記之永正九壬申七月日酒家判云々小笠原流也
- 一 諸書當用抄 伊勢國司北畠家記也弓馬ノ事小笠原ノ説也
- 一 奉射大的記 年号記者等不知小笠原家古書也
- 一 法量相異本 文安二年七月廿八日沙汰淨元記之 小笠原保希ヨリ持長

- 一 書札系雜々ノ書 伊勢伊勢守貞孝家臣河村隆之助正秀記之 天文永祿比在世
- 一 武雜記 伊勢伊勢守貞孝記之天文永祿比在世之政所職也
- 一 條ノ陣書一名宗天双紙又宗天二冊云々大永八年三月伊勢守貞入道宗天記之 名宗貞頼元貞仍
- 一 諸陣書條々 年号月日記者不知小笠原家ノ古書也
- 一 貞親教訓書 伊勢伊勢守貞親教訓于嫡子兵庫頭貞宗之書也長祿元年三月記之
- 一 酌券記 伊勢守貞在門尉平貞順記也天文永祿比之人也
- 一 弓法私書 年号月日記者不知小笠原流陣書古書也
- 一 供立日記 右同弓法私書代武家供立列ノ事ヲ記ス
- 一 奉公覚悟記 伊勢伊勢守貞孝家臣河村隆之助正秀自筆也 時代ハ
- 一 伊供古史 文明十四年七月伊勢守貞中ノ貞藤 法名長記之 号瑞笑軒 古記
- 一 色ノ請取渡之事 伊勢伊勢守貞陸記之文明之比人也
- 一 弓法秘傳陣書 年号月日不知卷尾ニ小笠原大膳太夫ノ名云々次ニ從之位賴氏次ニ兵部丞賴秀ノ入道ノ者云々
- 一 弓馬三冊 弘治二年六月武田伊豆守信豐記之

一 弓矢名所之記 宝徳元年十二月小笠原長入道淨元記之

一 馬具寸法記 伊勢兵庫頭平貞為記之天正慶長年中人

一 遠笠原記 年月記者不知小笠原家之古書也

一 關的射手覚悟條々 年月記者不知小笠原流古書也

一 歩立同書 右同断

一 大退物見談 明應二年七月佐々木元子長徳記之小笠原流也

一 大退物磨談 寛正元年二月五日冬後多忠播磨元長与名あり

一 大退物談外 長亨元年十一月四日上系多忠賢家記之小笠原播磨

一 射手搔副記 年月記者不知小笠原之古書也

一 笠原同書 小倉左近將監源實澄之同書也実院有多忠其後多忠

一 伊内書引付 天文二年伊勢伊勢守貞忠調進之案也

一 歩立躰拜記 永正二年二月六日或人抄之本写由奥書あり

一 富家弓法集 小笠原兵庫助長秀之記也義滿將軍時代之人也

一 八廻日記傳 小倉左近將監實澄記之多忠其後多忠

一 大退物同書 一色兵部少輔同書云文永二二四年中小笠原兵部少輔同

一 射礼私記 永享元年十二月廿日小笠原信房持長記之一本云文治拾年二月

一 八日元長刺あり小笠原刑部少輔元長也

一 大退物同書 永正十二年十二月廿日奈良右兵部少尉元秀記之

一 大退物馬足 文明十年三月日細川右近政國多忠其後多忠

一 小の事 年月不記波カバ信部同情入道宗岳カバ名あり細川高國自筆本字之

一 大退物射カバ寸法記 年月記者不知古書也

一 大退物益談 寛正四年未月十日小笠原兵部少輔元長記之

一 大退物雜々 伊勢伊勢守平貞宗朝臣自筆也云々天文四年乙未六月十四

一 伊勢守一入道貞亮字之

一 大退物初心記 年月記者不知古書也

一 大退物射カバ寸法記 同前

一 大退物檢見條々 應永十六戊戌年八月十六日書之沙弥道觀沙弥貞元

一 多名あり判トアリ貞元小笠原信房満長カバ法名也道觀ハ未詳

滿長、父民部少輔長法名道隱、号道觀、氏長法名改、夕儿歛

- 一 真境大追物記 年月記者不知古書也
- 一 大追物益後 前記夕儿益後、同名異本也、年月記者不知古書也、小笠原說也
- 一 大追物檢見故實 天文十五年八月十二日伊勢伊勢守貞孝記之
- 一 大追物真鏡 右記、真境大追物記、別也、永正五年七月朔日多賀長、後入道宗悅、與書、
- 一 多羅枝故實 年月記者不知古書也、小笠原說也
- 一 康應日記 康應二年六月小笠原信濃守清順入道長基記也
- 一 寬正記 記者不知寬正中記之歟、小笠原之說也
- 一 今川了俊大双紙 小笠原之書、非、共見合、為引用之也
- 一 園的次第 小笠原之書、小述、共古書也、記者未詳、見今、為引用之也
- 一 大追物政清記 文明十年六月日小笠原備前守政清記也
- 一 宗仁厚書 上卷天文十六年二月八日下卷天文十九年六月二日、歸本軒宗仁記之、其所載、小笠原之說也
- 一 伊勢常真記 元龜二年仲春上旬伊勢守一入道常真記之
- 一 大永開書 大永元年九月十五日判在、トアリ、記者未詳

○小笠原系圖略

○義光 新羅三郎

義清

武田冠者 武田之祖
刑部三郎
出家四十九歲配流甲斐國市河庄

清光

号逸見冠者
里源太
逸見之祖

遠光

小笠原 秋山等祖
信濃守
加賀美二郎
文治元八十四源氏父受領之内

長清

義久乱之後賜阿波守護
職七ヶ國管領
小笠原加賀美三郎
左京大夫
信濃守 正四位下

長經

小笠原太郎
彈正少阿
侍從
法名長禪

長忠

小笠原源二郎
信濃守

長政

孫二郎
信濃守
伴野出羽守被誅之後、小笠原惣領職管領

長氏

信濃守
彦二郎
大膳大夫

宗長

孫二郎
信濃守
法名順長
号扇谷

貞宗

建武武者所
信濃守 護職
彦五郎
信濃守 從五位下
号閑善寺月山
法名正宗

貞長

彦二郎

小笠原系略

長高

六郎二郎
美濃守 法名宗珏

氏長

又六 備前守
民部少輔
法名道隱

滿長

二郎
又六 民部少輔
備前守
應永九七年十月十四日死
法名興元

持長

又六 民部少輔 備前守
道号心源 法名淨元
長祿二年閏正月十六日死

持清

又六 民部少輔 備前守
法名大中 寛正六年十二月十六日死

持房

二次郎

教長

弥六 刑部大輔 美濃守
法名宗元

元長

八郎
六郎 兵部少輔 播磨守
法名宗長 文龜二年死

政廣

弥六 刑部大輔
法名宗霽

政清

又六 民部少輔

尚清

民部少輔
備前守
文龜二年死

植盛

又六 民部少輔
備前守

元清

八郎 文明九年八月
廿一日 千足御大之時
被任刑部少輔
法名宗樹

元宗

六郎
刑部少輔

秀清

又六
民部少輔

乃てんごころをハ川とりのをとりあつと云るも一あるも相遠の事ハ
一二ヶ條ありてハそと相遠の事多くあるの中 貞文云軍陣ニハ引クハ詞
ヲ忌ムニ一上チアラヒクハ云事ハ
マレト武田ニハ云也ハハ引ト云事ナレト云るヲ秘シテ上チ引クハ云事アリト云ナリ是秘スルホド
ノ事ニモアラザルヲ秘シタルハイフカレキナリ武田ノ流ハ正直ナリ

一 射手方團書ハ武田と小笠原と流滴乃矢の匠ハ相遠の事又た
リそ文流滴乃の部ハあるすゆへ今あるハ相遠

一 弓法私書云ある事大ハ二ツ矢流滴乃ハ矢ぬき出キ事

也二ツ矢ハ武田ハ矢ハ入る事ぬき出スハ矢を切シト云テ矢を止

ス向ハぬき出シ一ツハ小笠原ハ二ツ矢の内ハ一ツの矢を止スルハ

二ツの矢の出スハ大乃時二ツ目のめく矢ハ二ツの出スハ二ツのりり

也又騎馬の射止ハ矢を流テ下すも多クハ射止ハあり武

田ハ先鞭をさしそ後止ハをさしそつちを分る止ハをさしそ

さすとハ小笠原ハ先止ハをさしそ後鞭をさしそつちを分るとハ

是ハ鞭をさしそ按き用ハさしそとハ武田ハ鞭をおくさしそ

おくぬきぬき止ハをさしそ後鞭ハ用乃止ハ先ハ鞭ハ矢より

出スルハハ有歟 貞文云むらハ夫より出スルハハ有歟
矢はくとむらの長サと同スルハ有歟
右のやの流を成ハ

此の文を
三浦やふ
はの本文
アヤニリニ
ヤシヨの
条ニテ考
レ

○ 貞文云小笠原家古傳書乃中事部乃小笠原と信列乃小笠
原と少く遠く事同くあり事部乃小笠原ハ將軍家乃上
意ハ信列改正せしれ事ともある信列乃流ハ
遠乃事ハあり事部乃流をさしそ流とりのあり

○

一 重藤弓

射師拾遺抄云随兵軍陣ふとのちをり地黒くありてせんた
巻をすへてんたをとりわりの地乃御を表するこゝをよきけを
しつゝ右の寸法二寸ばかりあひぬかり矢すりあす斗こゝをすかき
わすすかき短しこゝをすわすす赤くすへ

一 弓矢の條々云重藤乃弓矢誘ユルや二寸斗よををほくは交アヒあふこす斗
也巻較ハ七管束及流ハ不定也想るるハ黒地を叫ぶとらるるおん思望し
わんあげとるハ地のいろこのむあり

一 射師持長記云重藤乃寸法二寸よあひぬかり矢すりあすこゝをす
長くわ管短しこゝをすわすす赤くすへ

一 軍陣圖書云これす地の改し似たりとす是をわをこわわしり今
のすす作りあふれり地の吉よ表すへとすを長く出へて強を
らきこらより今の世ともめけし黒地を表するよりてらハ黒地を
わとするこゝ後方をほくり地のいろをよ表するこゝを右地の改し
浦管印管地乃改し口のまハ赤とす

高長 善慶院殿山門退治乃時 真雲寺佐木持光及伊佐中流出陣時
後の方を指しこゝをわすすはあをこゝをわすすこゝをわすすはあをこゝ
をわすすはあをこゝをわすすはあをこゝをわすすはあをこゝをわすすはあをこゝ

重藤弓

○ 本重なり 射步拾遺抄云武田小笠原両家ハ本重なり云よりより
上二不重なり

- 一 射步持長記云武田小笠原両家ハ本重なり云よりより上二不重なり
- 一 忠臣書別記云小笠原よりより本重なり云よりより上二不重なり
- 一 卷ふるまげだる云小笠原武田両家ハ本重なり云よりより上二不重なり
- 一 弓馬故実云小笠原よりより本重なり云よりより上二不重なり
- 一 本重なり云是ハ人よりより評政はるる也たつれハ本重なり云よりより上二不重なり
- 一 的出強記云本重なり云よりより上二不重なり
- 一 上賢抄云云をあり云よりより上二不重なり
- 一 不重なり云云あり云よりより上二不重なり
- 一 諸書尚用抄云出陣の時本重なり云よりより上二不重なり
- 一 本重なり云云あり云よりより上二不重なり
- 一 本重なり云云あり云よりより上二不重なり

本重なり

○ 一 塗泥考 軍陣圖書云友は白き布にぬりたる友と云はまきなり上を
赤らるるにぬりたるを云は黒しと云は白く友の上をぬるるは略儀也
一 的出張記云塗土をぬるるのろよとては唯人もおあり

塗泥考

一 千手卷弓

貞丈云是ハヌリ
コノ巻ノ弓ノ類也

一 弓法私書云弓のせんぶを乃事こゝろに扱ハむを志けり卷目分間をみ
分かりをこぞ多しめて巻てこゝろをこほしめぬりあふらるをせんは巻た
貞丈云トハコノ弓のむしあまそ巻の弓のこゝろにわをせんは巻すすちとありま巻の時のせんは
巻ハ巻め分間分間をわしりし巻ハ二分間を分ちてわしりし又巻あふらるのこゝろを
わしりすのふらと十文をわしりてわしりてせんは巻と云又せんは巻と云

○ 一的弓 白木 射所拾送抄云白木をば白木む〜と云々〜のめりを用〜

丸物弓席をさみおかし用〜丸物弓席校おかし希うし〜

射所将長記云的弓は幸白木をむ白木村ごき是あを可用云

弓和記云的弓と人の所を此時云〜さきをさ〜む〜と云々をす

一 圖的圖書云的校物弓席丸物おとし白木をば白木む〜と云々と云々射へし自

能白木此のあき射へしなり〜射へしむあり 貞文云ぬり弓ハ騎射の弓ハ

すり〜と云々と云々白弦をひて射へ〜 貞文云ぬり弓ハ騎射の弓ハ

一 弓馬故書云白木は弓つり〜 貞文云赤木ハ朱弓也

一 又云白木ハ必白弦ぬ〜 貞文云白木ハ必多すり〜

的弓 白木 貞文云白木ハ必多すり〜

弦一張りたるをあると云ふゆゑなりよと云ふ人もはをのよと云ふありぬゆゑ
 一 法量地界本云うれ村にこれ事かたうとすの端を通る一巻の中と云
 弾よりて色スと云く一内がう一彈は色して多きより下を色くこく
 一 中を色くしてほけて妙なりよりて又村と云ふかして中若乃際まで
 こく一いよあふよこくきくう一内を村にさよふ細多きと云く別紙に之
 一 法私書云村にこれ事かた竹の内をうとすより中をすこき通し
 又内がのあをうとすより一尺あり斗をてり一尺ありこき回おさうれ
 上よりあざりのりごと一尺ありこく一尺の丸はあめあまのあをわくくして
 うすより一ニ寸トけて長サ一尺二寸ありこき又あざりの上のあを一尺
 余りこき又あざりのりなりすの上ニ寸あり強して一尺ありこく一尺を
 めむ何とあをやりちぐてこく一尺ありこきあうる一尺を
 一 又云村にこれ事申書の羽あといわ射はあといわ計破りさうりゆ
の羽あり小射手トハ弓太師の
外乃きざり射ゆのゆゑ
 一 弓馬二冊云村にこれ事流の秘事之序おめさう太師ありて射ぶるる事よハ
 計破りさうりゆ

○ 側白木弓 弓るを真云を白木と云事竹を赤くと又黒くありて
 あをわくしてあをを云く是もめりありうり不付竹あるの時ハゆり

一 八廻日記は傳云を白木と云事すりわがうををほくあまゆりくをす
 又ぬりうよますすりわがうををほくあまゆりくをす
 ういぬりうろろあははは流ともは流すりうあははるへ一
白木のゆのこを云うは白木のうりありますりうあははるへをいさすりてをを
まのくあははるゆへ白木のゆををいさすりうあははるへをいさすりてをを

側白木弓

○ 側ヒツコロ黒弓 弓法秘書云 弓はめを白く残して箭をもあつてはまを
まぐぬりて左をばひる上よりお事好むるこゝら也 晴の射よはたかす

側黒弓

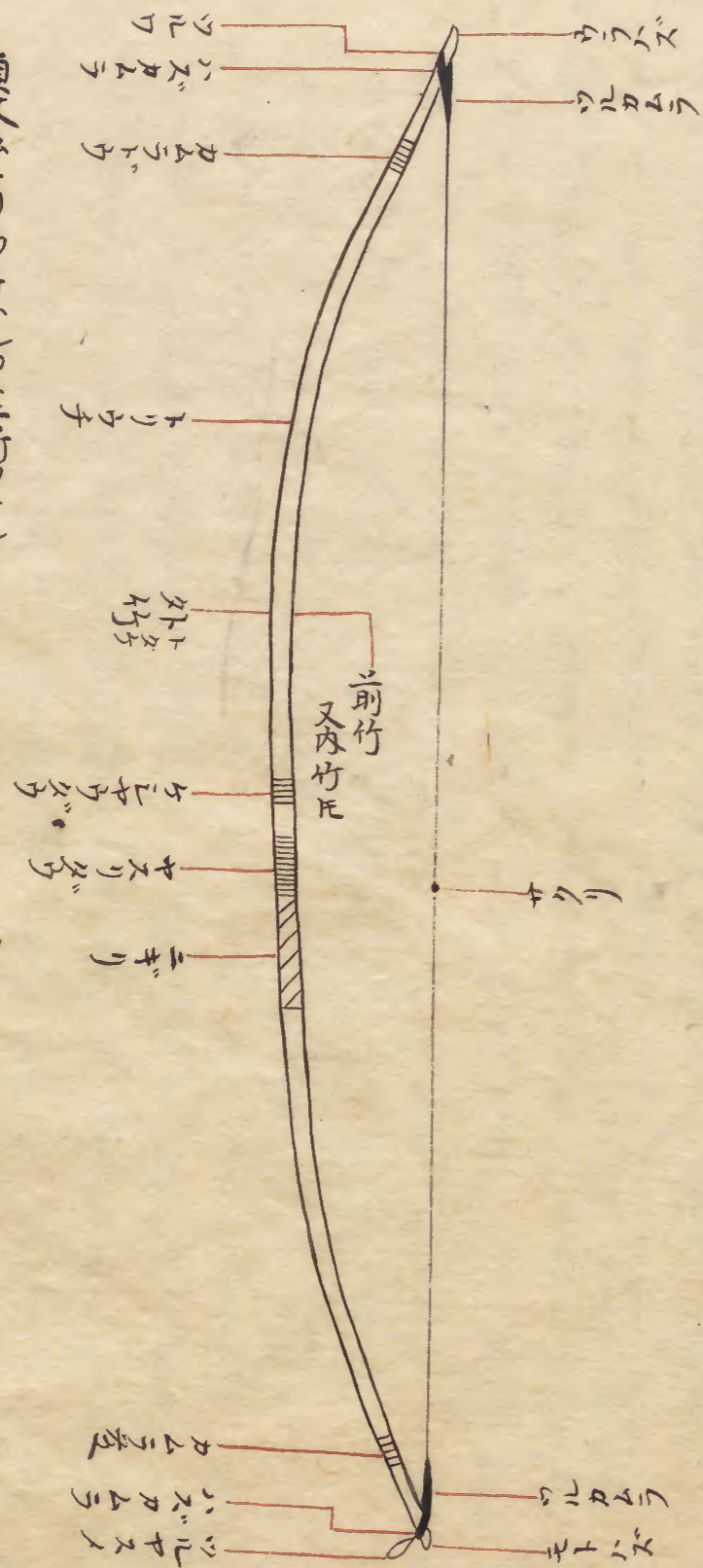
○一節巻弓 是印記云物一巻れろハ前分一外分一と云々一
前分一ハ一人ハ一ハ一ハ一

一弓筋條々云節巻をまげ重きるけ云々一にうろ一を原く云々
もゆ一ゆきあり

一弓法私書云弓を節巻又ハ匠云は赤漆と云ふどもあり何もその人の
好むに依て一一人一者をまげ重きるけ云々一者よつひ一ハ大笠を
射多よつひ上りても射之者をぬる一略依之汁半堂と射一云
ハ必白者をけり云々一

節巻弓

○ 弓矢名所之記弓馬故実弓乃名所の事



弓名所

自又云トリウチハニカトニ所ツサシテスフニアラス弓ノ肩ノ丸クハリ出タル所ノ邊ヲ指シテトリウチト
 云也弓法私書三人ニ語ルニ鳥打ノ色トカタルナリニカトイフトハ申カメナリ邊ト申ス詞習ナリト
 云ヘリ右ノ名所ハ射手方ニ用ル名ナリ近世弓作ル者ノ方ニ用ル名所大智チハチヒメンリフ
 トゴシナド云名ヲ云フ武士モアリヲカレキ事也射手方ニ用カル名ナリ又云右ノ弓ノ形ハ古代
 ノ形ナリ近世ハ上ホコヲツヨクソラセタルハ弓クルヒテ外ヘカヘリヤスシヒテ古代ノ形ヲ用ユヘキナリ
 且上ホコヲツヨクソラセタルハ弓クルヒテ外ヘカヘリヤスシヒテ古代ノ形ヲ用ユヘキナリ

○ 一 にさうり巻板 射所拾遺抄云にさうり巻板のゆゑに西き巻て申をわあけて

火を又下ニ巻上れやく是を巻へ一印竹の内うどよりほき初て印竹の

知りどよ巻はるこ巻うるるる一 貞文云ふさうりハ下より巻くべし

一 射所持長記云うのにさうりを巻るゆゑ上ニまきハありいを少もあけて巻

て申をわあけて巻て又下ニ巻を上のやくに是を巻へ一上下ニ巻

ゆゑありいをゆゑ一す印竹乃内のかどより巻居て印竹のかかと

にてとむ一草ハ馬草也 貞文云ふさうりを巻くゆゑのうを巻て巻ハ後ニう草也

一 馬草記云ふさうり草ハ草ハ草也 貞文云ふさうりを巻くゆゑのうを巻て巻ハ後ニう草也

一 出陣ゆき書云うれふさうりの草ハ草也 貞文云ふさうりを巻くゆゑのうを巻て巻ハ後ニう草也

一 高忠け書云ふさうりれ巻居印竹の内うの竹とよるより巻出へ一巻る

一 六印竹のかさの竹とよとのる巻居一上下ニ巻てハるもあくあつとが

らて巻へ一申をわあを巻てまたまりのある板もまへ一かみの板もまへとハ

定ぬぬ人のゆゑより一草ハ馬草也 貞文云ふさうりを巻くゆゑのうを巻て巻ハ後ニう草也

一 園的圖書云白ふゆりうれふさうりの巻居の申印竹のかかと巻初てニ巻を
にさうり巻板

をりへあはさるるやうにさるるあり

一 園的園書云弓をさる弦をさひたりゆ付はさるるれれをさひるゆ先
は若れ方をさひるゆ後うは若の方をさひるゆ也弓の弦を拵付はさる
とれゆうあづへー濃

一 忠は書別記云弓をさるゆ東は南は向を法うへー弦をさるるをさるる人よ
あするこ又西は北は向をさるゆも同ゆゆはるゆとさひるゆあする
也ゆさるらゆ用きあり

一 弓馬園書云弓をさる事若人をも人の弓をさるるゆもさるるゆもさるるゆ乃
ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
をさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
さるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
との付もさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも

一 活書高田抄云人の若うさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
若うさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも

一 弓法私書云弓をさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも

貞文云弓ト弦ト同ノ所ヲト云事
矢羽ノ口先所ニ羽ト云ニ羽ノ字ヲ用ヒ

一 射子抄副記云人若うさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも

ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
又極のうへをさるゆもさるゆもさるゆもさるゆもさるゆもさるゆも
極を押あて左のゆもさるゆもさるゆもさるゆもさるゆもさるゆも

ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも

ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも

一 又云弦をさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも

ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも
ゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも

一 弓馬故書云をさる人又若れ人の若うさるるゆもさるるゆもさるるゆもさるるゆも

一 又云 矢根ノ名 卯ノあひすやさあど中内一向道弓矢故実ノ道ナリヨリ

一 又云 弓矢ふべかりとりのいひはむすすもささずあまての足ぬ弓をた

さみ又ハ板ふとまおしりてすあえすをんよそくさせてさそ弓を

おしてえさるすをさべかりあさきふ人の中貞丈云職人寄合の後弓作の御さあり大津多きとあり

一 又云 同者あしち中ハ又しりてすを切てさあ之強をくけてえさるすを中

一 又云 おひささうあさすす一弓矢多あり

一 又云 ありちよ別名ありりゆさやまとの中

一 弓よふらうとりのあし大速あの時目御細物さああはの付一杖さても

ふらあられ拾え射よと洞谷の時入る御は但弓矢あり

一 軍陣は書さふらうとさハ弓一法乃半二ふらうとさハ二法のゆえ貞丈云弓

一 是如記さる所お振さるもそ人の異相をこれの好とあさるさあゆ

よあさるさあゆ

一 又云 弓の左まの指張のゆこれお後さあ人乃異相のことら一振こ

一 又云 弓をりらこささあさりゆゆこれのありあさるさあさるさあさる

一 是如ゆへに海は面白さるゆとさ

一 又云 弓をさるいさすさる海は曲半れゆさる海は被作ゆえ又系被ゆ

まらあさるあ人及は弓をたさいよはせせゆを宗依は境一はの曲ゆ

ゆゆゆやそ人よさこれゆを射あ人へ射あるゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 射ゆ被遠抄さあはる巻ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 してさあさるさあさるさあさるさあさるさあさるさあさるさあさる

一 又云 弓のよさあさるさあさるさあさるさあさるさあさるさあさる

一 又云 忠は書さるの力の半常は二人カ三人カ一強かあ人りあゆゆゆ

一 ぬゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 一いゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 又云 弓を二カニカとりあゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 一いゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 又云 二人がりと云ハ二人してさるさるさるさるさるさるさるさる

一 一いゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 又云 二人がりと云ハ二人してさるさるさるさるさるさるさるさる

一 一いゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 又云 二人がりと云ハ二人してさるさるさるさるさるさるさるさる

一 一いゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

